

EMERGENCY WATCH

No. 104 Aug 2019



神戸こども初期急病センター

2019年7月
受診者数
2046人

疾患頻度

1. 急性上気道炎 472人
2. ヘルパンギーナ
+手足口病 305人
3. 感染性腸炎 233人
4. 咽頭炎 205人
5. 喘息 142人



6月に続き7月も、ヘルパンギーナ+手足口病が大流行しています。



暑さがまだまだ続く今日この頃ですね。
冬に流行するRSウイルスですが、最近では夏でも感染がみられます。
どうしてでしょうか？
今回は、そんなRSウイルスに対する素朴な疑問に答えます。

Q1. RSウイルスって？

Respiratory syncytial virus(RSV)といわれ、生後数ヶ月未満の感染では重症な症状をひきおこすウイルスです。症状は風邪のような軽いものから重症の細気管支炎や肺炎など様々であると言われていています。細気管支炎とは喘鳴(ぜーぜー)、陥没呼吸や呼吸困難がみられるもので、聴診すると湿性、乾性ラ音が聞かれます。ただ実際は細気管支炎と肺炎を鑑別するのは難しく、しばしば合併します。潜伏期は2~8日です。

Q2. どうやって感染するの？

感染経路としては、飛沫感染といわれ咳やくしゃみなどによって気道分泌物や唾液が飛び散り、それを吸い込むことで感染します。また鼻汁や咳などのウイルスを含んだ分泌物に汚染された物や手を介しても感染をします。そのため家族内での感染が多く見られます。

Q3. 夏でも流行するの？

RSウイルスが流行しやすい季節は、温帯地域では冬にピークがあり春まで続きます。一方、熱帯や亜熱帯地域では雨期に流行がみられますが1年中感染がみられます。日本は沖縄以外の本州は温帯地域に位置するため冬に流行がみられ、沖縄は亜熱帯地域に位置するため一年を通じて感染が見られます。

最近ではRSウイルスと気候に関して様々な研究がされており、温帯では気温が低ければ低いほど、更に湿度が高ければ高いほど流行があるとされています。また熱帯や亜熱帯では、気温が高ければ高いほど、湿度も高ければ高い程流行しやすいという結果がでています。実際、ここ数年は日本で夏の流行もみられており、それらの地域では熱帯・亜熱帯と同じようなパターンで気温が高く、湿度が高いほど流行が大きいということが分かっています。これからは冬の感染症という概念は取り払い、年中気をつけなくてははいけません。

Q4. 予防は出来るの？

感染すると重症化する可能性があるハイリスクの乳幼児は、予防としてパリビズマブという抗体医薬を使用することが出来ます。それ以外に関しては、標準的な感染予防である手洗い・うがいをしっかり行い予防しましょう。

さらに詳しく知りたい方は、国立感染症研究所ホームページをご覧ください。

発行：神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野こども急性疾患学部門



EMERGENCY WATCH

特別連載 こどもの事故 part 5

夏休みも終わりましたね。長い夏休みも高校野球の決勝が終わると終わりの雰囲気になりますよね。

こども時代の夏休みは振り返ると「あっという間」です。大人の皆さんの夏季休暇はもっと「あっという間」に終わりますよね。今回のキーワードは事故における「あっという間」です。

こどもの事故が報道されるとコメンテーターが「こどもから目を離さないようにしましょう」と締めくくることがあります。目を離ささえしなければ事故は防げるのでしょうか？

もちろん長時間こどもを放置することによって起こるべくして起こる事故もありますが、落ちる・転ぶなどの事故は目を離ささえしなければ防げるのでしょうか？目に入れても痛くないかわいいこどもですが、ずっと目を離さずにいることはできるのでしょうか？

その答えはこどもの事故は起こり始めからけがをするまでの時間はどれくらいなのか？というデータの中に答えがあります。

こどもがつまずいてから頭を打つまで平均0.5秒。ソファから落ちて頭を打つまで平均0.3秒でした。

(産業技術総合研究所調べ)



How fast does a child get injured?

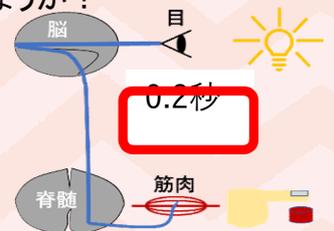


0.5秒ってどんな時間でしょう？秒針が一つ進む時間の半分ですね。当たり前すぎることを書いてすいません。具体的に人間の生理的な時間と比べてみましょう。

0.5秒なんて自分だったらこどもの事故に反応できちゃうよという反射神経に自信のある方もおられるかもしれませんが。ランプが光ればボタンを押す。こんな単純な反応にかかる時間はいくらだったのでしょうか？

平均0.2秒でした。(石口彰ら,1984)ここで大事なはこの実験は光を見る→ボタンを押すだけの単純な作業ということです。

こどもがつまずいたのを目で見て手が動き始めるまでが0.2秒、引き算をすると頭を打つまであと0.3秒です。さあ、どう助けましょうか？抱え上げるように助けましょうか？



服の背中をつかみましょうか？ 考えて判断する時間も必要ですね。またこどもが居るのが足元ならいざ知らずそれも1メートルほどの距離があればどうでしょう。助けることはできるでしょうか。スーパーヒーローにしかできないことですよ。こどもから目を離さなければ事故を防ぐことができるのか？ の答えはNO！ です。ではどうすればいいか？

こどもにおこる事故のリスクを知って、前もってそのリスクを減らすことです。

これからもリスクとその対策についてお知らせを続けますね。

今回はキーワードを「あっという間」にしましたが読むのにかかる時間も「あっという間」でしたか？
また来月！

